牛の人生

一年

K

K

　ぼくはこのエッセイを読んで牛の人生は本当にあっけないと思いました。

　なぜならば、中川さんのような愛情を持った人に飼われているので、牛自身は幸せに感じている一方中川さんは、みんなにおいしく食べてもらうために牛の頭をなでたり体をさすっていいお肉になるのが目的だからです。

　ぼくは牛にちゃんと生きてもらいたい。しかしおいしいお肉をいただいている自分たちにとって牛が亡くなることで願いが叶うのであれば、ありがたくいただくことしかできません。そして牛だけでなく中川さんのような生産者のお辛い気持ちも忘れてはなりません。それではおいしくいただきます。